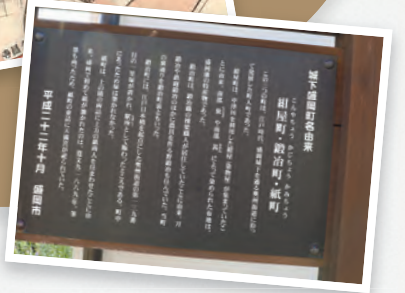


盛岡の魅力 を再発見

旧町名を深掘りしてみよう!

盛岡のまちづくりは、盛岡城を中心に城下町が開かれたことに始まります。旧町名は当時の地域の特徴を表しており、歴史の変遷によりなくなったものもありますが、確かに存在した営みを証明する「土地に刻まれた言葉」です。つい語りたくなる旧町名の歴史や、旧町名に紐づくまちづくりの取り組みを知り、普段、何気なく暮らす盛岡の魅力を再発見してみましょう。

本記事では盛岡城跡周辺の旧町名をピックアップ! 紙面では紹介しきれないその他の魅力的な旧町名は、市ホームページでも紹介しています!



昔の街並みを
知ることで
当時の暮らしが
想像できます

旧町名が物語る人々の営み

盛岡では、盛岡城築城とともに城下町づくりが開始され、慶安4(1651)年に、盛岡二十三町が町立てされました。さらに文化9(1812)年には、城下の発展に伴い町人街が整理されていき、二十八丁となりました。

当時の町名は、その土地に住む人々の職業

や出身地(青森・三戸町や秋田・仙北市)、その町で市が開かれる日(六日町、十三日町)や、地形・土地柄(川に近いから川原町)、寺社・信仰(八幡宮がある八幡町)などに由来しています。昭和38(1963)年から住居整備事業が実施されて、藩政時代から続いた町名はほとんど消えていきましたが、お店の名前やイベントの名前で旧町名が使われるなど、身の回りに残っているものもあります。

旧町名は、名前に風情が感じられたり、名前から地域のことを想像できたりするのも面白いと思います。さまざまな世代の人に知ってほしいですね。



盛岡市先人記念館
学芸員
坂本 志野 さん



① 生姜町
(現 肴町)

江戸時代、今のバスセンターのあたりにつくられた「神明社」。この神明社の祭でしょうがが売られていたことからしょうがを買って帰る習慣がなじみ、「しょうがを買う町」として町民に親しまれたことから、生姜町となった。

生姜町や呉服町は
売っている物に由来しているのが
面白いと思います!

日々の
営みから
地域の名前が
変化した町



② 葺手町
(現 中ノ橋通)

屋根ふき大工が住む職人の町

盛岡藩では山城(今の京都府)から、鳥山葛右衛門という屋根ふき職人を招いて、城下町の家々の屋根の改造をした。このことから、盛岡城下ではかやぶき屋根のことを、葛右衛門の名前からとって「葛屋根」「葛ぶき屋根」といった。

※「ふくで」と読む資料もある

旧町名を巡る エリア案内図 (抜粋)



⑥ 肴町

気楽に
買い物できる
町人の町

肴町の由来は、魚商人が多く店を構えたからなど、諸説ある。奥州街道沿いではないが、気楽に買い物できる町人の町として栄えた。永卯や村源商店、神呉服店、平金商店、スズエ工房など今も残る老舗がある。



③ 鍛冶町
(現 紺屋町)

刀鍛冶・鉄砲鍛冶、農具などの野鍛冶職人が住んでいた町。鉄を冷やすには水が重要であるため、中津川沿いに位置したものと考えられる。奥州街道139番目の「鍛冶町一里塚※」があり、五街道の一つ、奥州街道に沿っているため人通りも多く、当時は盛岡藩の中心ともいえる場所だった。

※一里塚…一里ごとに築かれた塚で、鍛冶町一里塚には駅舎があり馬の乗り換えなどを行った



④ 内丸

盛岡藩の藩主や 重臣たちの住む武家屋敷地

「内丸」は、盛岡城の内堀と外堀に囲まれた区域を指す。明治時代には盛岡県(岩手県)県庁、盛岡市役所が置かれ、官庁街となった。盛岡師範学校や公立岩手中学校(盛岡中学校)、岩手医学校など、学校の集まった場所でもある。



⑤ 呉服町
(現 中ノ橋通)

呉服を扱う店が多かったことから呉服町に。のちに全国の財界を席卷する「小野組」の小野善助もここを拠点にしていた。明治17(1884)年の河南大火の後は、商店街から金融街に。第九十銀行、安田銀行盛岡支店、盛岡銀行、盛岡郵便局など。

参考:盛岡市先人記念館

地域の取り組み
其の①

しょうがでつながる、人と地域

盛岡しょうが市

「かつて町名になるほど『しょうが』が身近にあった盛岡で、しょうがの文化を継承したい」。陸前高田市でしょうが農家を営む菊地康智さんの思いが実を結び、旧生姜町に軒を



連ねる店舗の協力で、令和3年から盛岡しょうが市を開催しています。各店舗オリジナルの生姜を使った料理が、寒さの厳しい盛岡で暮らす人々の心と体を優しく温めています。



▲奉納されたしょうが

また、現在は盛岡八幡宮内に遷座された神明社の例祭では、今もしょうがが奉納されており、旧生姜町の名残が受け継がれています。

盛岡しょうが市を
未来に残る文化に

情緒あふれる盛岡にしょうがの文化があったことがとても輝いて見え、盛岡でしょうがのイベントを開催したいと強く思いました。盛岡しょうが市はコロナ禍もあり手探り状態でのスタートでしたが、人を元気づけられるしょうがの力を多くの人に届けられたと思います。かつて、生姜町でしょうがを買うことが習慣であったように、盛岡しょうが市を今後も継続させて、盛岡の文化にしていくことが夢ですね。盛岡しょうが市では協力店舗が独自のメニューでしょうがの新たな魅力を提供しています。しょうがの文化とともに、しょうが自体の美味しさや食べ方のバリエーションなども楽しんでもらいたいですね。



▲バスセンター屋上でのイベントの様子

盛岡しょうが市開催期間：11月11日(土)～26日(日)

盛岡しょうが市感謝祭：11月11日(会場は旧生姜町近辺を予定)



盛岡しょうが市実行委員会
委員長
やすとも
菊地 康智 さん

盛岡
しょうが市
Facebook▶



地域の取り組み
其の②

人が集まり、賑わいを生み出してきた
地域の情報を発信

城南地区を街歩き

城南地区は東部に盛岡天満宮、住吉神社、盛岡八幡宮などの寺社が並び、西部には紺屋町番屋や莫座九(森九商店)など歴史ある街並みが残る、異なる特色を備えた地区です。平成23年に立ち上げた城南地区地域づくり委員会では、街歩きを楽しめるように旧町名の情報も取り入れた「盛岡『城南地区』マップ」を作成し、おすすめの散歩コースや地域の歴史的・文化的な情報、賑わい情報を発信しています。



地域の未来は、
興味を持って
知ることから始まる

自分たちの地域をみんなで盛り上げたいと思い、委員会を立ち上げました。私たちの暮らしは、歴史と文化の積み重ねの上に成り立っているので、地域に関心を持つことが、地域での住みよい暮らしにつながると思います。岩山の麓に広がる自然と、肴町など藩政時代から商業の中心だった市街地を併せ持つこの地域の特色を大切に、これからも育てていきたいですね。



▲盛岡天満宮から見た街並み

私のおすすめスポットは盛岡天満宮です。素朴で愛らしい表情のこま犬がとても好きです。最近は御朱印ブームもあって市外の人にもよくお越しいただいていますし、岩手山と市街地を一望できるのも良いですね。



城南地区地域づくり委員会
委員長
つとむ
泉澤 力 さん(写真右)

城南地区
地域づくり委員会
ホームページ▶



(写真左)城南地区地域づくり委員会 事務局長 金澤 たくし 卓司 さん



◀盛岡天満宮のこま犬



今も残っている
昔の名残を
探してみよう！

イベント
情報

探究心をくすぐる展示を
見に行ってみよう！

第17回盛岡の古町名展

惣門かいわい その2

惣門かいわい(現在の南大通三丁目、鉈屋町付近)は、奥州街道や新山河岸などの陸運・舟運の要路があり、交易の中心となった商業地区です。このかいわいの歴史とゆかりの先人たちを紹介します。

※関連情報は9ページのイベント情報をご覧ください

【広報ID】1021353

場 所:盛岡市先人記念館 2階企画展示コーナー

開催期間: 9月16日(土)～12月3日(日) 入館料:小・中学生100円、高校生200円、一般300円

